

OPINION

直前問題は アスベスト禍だ！



アスベストがむき出し

今もなお、被災地には倒壊した建物などの瓦礫が山積みだ。風で粉じんが舞い上がる中、作業員らが解体・撤去、運搬車の誘導に当たる。そんな中、現地では日に日に空気が白くなってきている。これは撤去などで、瓦礫がかき回され、アスベストが飛散しているからだという。また、鉄骨に吹き付けられたアスベストがむき出しになった現場が多く確認されている。

瓦礫処理には数年かかるとされ、瓦礫の量は岩手、宮城、福島で計2,490万トンに上る。瓦礫処理作業の脇を登校する子どもたちや住民、作業員、ボランティアなどが吸い込むのが心配される。アスベストの怖さは放射線と同じく、後年に影響が出てくることだ。

国は瓦礫処理対策費を第1次補正予算として4兆円を支出したが、その項目の中にアスベスト対策費はない。放射線への対応は、連日、多く発表されているが、アスベストについては、皆無だ。

アスベストの危険性を 1急に告知しろ

繊維状の鉱物。耐熱性に優
き付け材、
など広



被災した工場の天井にあるアスベスト

環境省は、「東日本大震災におけるアスベスト調査委員会」を先月15日に発足させた。その目的は、瓦礫処理に伴う、アスベストの飛散・暴露防止だ。調査委員会では、アスベストの大気濃度調査を進め、その結果をもとに対策方法を講じるという。

しかし、震災から3カ月、瓦礫処理がどんどん進められ、アスベストが飛散している。いまだ、アスベストの危険性を住民には知らされていないのだ。

国はまず、被災地の住民への告知を早急にすべきだ。次に防塵対策、健康診断、アスベストの処理を急げ。そのためにも対策費を早急に2次補正予算に組み込め。さらに今後、放射線への対応と同じく、長い期間にわたって、対策費が必要となるはずだ。

6月13日 建設技術新聞より

現在、東日本大震災による被災地では瓦礫処理等に伴うアスベストの飛散・暴露が問題視されております。

福島第一原発事故に伴う放射能汚染の問題がクローズアップされる中、あまり報道等がなされておりましたが、被災地からの仮設機材の返却時にはアスベストの付着が想定されますので、十分にご注意下さい。

万一、アスベストの付着が確認された場合には、使用者に申し出てアスベストの処理を依頼し、飛散防止に努めると共に、防塵マスク等の着用を心掛けて下さい。